

臺灣高砂族住家の研究

— 第6報 附屬構造物 —

文部省教育施設部福岡工事事務所長 千々岩 助太郎

(はしがき)

筆者は本研究第1報—第5報に於て各種族毎に住家の實態について論じてきたが、住家のみでなくその附屬構造物に於ても見るべきものがあるので、これを一括して記述せんとするものである。

高砂族住家の附屬構造物は種族に依つて一様でないが、穀倉、集會所、望樓、獸骨架、作業場、涼臺、豚舎、牛舎、鶏舎、首棚、司令臺、屋外炊事場、産室、舟艙及び舟等であつて、その材料及び構法手法は該地方の住家と全く同様である。

第1表 各種族に依る附屬構造物 ○所有するもの

種族	穀倉	集會所	望樓 涼臺	獸骨架	作業場	豚舎	牛舎	鶏舎	首棚	司令臺	屋外 炊事場	産室	舟艙	舟
アタヤル	○		○	○		○		○	○					
サイシャット	○			○		○		○	○					
ブヌン	○			○		○		○	○					
ツオウ	○	○		○		○		○						
パイワン	○	○		○		○		○	○	○	○	○		
アミ	○	○		○	○	○	○	○	○					
ヤミ	○		○		○	○		○				○	○	○

1. 穀倉 ブヌン、ツオウ兩族は屋内、パイワン族は屋内及び屋外、他の種法は何れも屋外に別棟として構築し、屋内穀倉は函形のもので外く、屋外穀倉は平面矩形高床式埋立柱のものが多く、床と柱との接合部には圓形の風返し板が附けてある。

2. 集會所 ツオウ族のものは各蕃社毎に構築し、ツオウ族民族制度の中心をなすものである、高床式構造で平面は矩形8×10m位の大規模のものもある。アミ族のものは各蕃社に數ヶ所設けられ、往時は未婚青年の宿泊所とし且つ外敵見張りの爲の歩哨をかねたものである。その構造は南北兩地方に依つて異なる。即ち平面は何れも矩形であるが南部地方のものは兩側面及び背面に壁を設け屋内はこの周壁に沿ふて1段或ひは2段に凹字形に床を設けて寢臺とし土間の中央に爐があり、北部地方のものは吹抜きで全面に床が張られ、數ヶ所に爐がある。又南部アミ族特有のものに少年集會所がある。高床式構造で平面は楕圓形、中央に爐を設け周壁に沿ふて寢臺がある。パイワン族のものは臺東附近にのみ存在するがその構造はアミ族南部のものと略同様である。即ち平面は矩形で奥行深く、土間のまゝで前室及び後室に分れ、その周壁に上下2段室の寢臺があり、後室の中央に爐が設けてある。

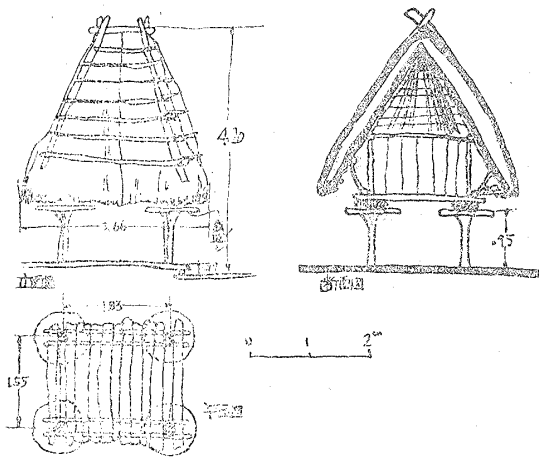
3. 望樓 涼臺、望樓は、アタヤル族特有のものである。往時は外敵の見張を主とし、青年男女の集會にも用いられたものである。蕃社の入口等要地に建築せられ、

平面矩形、小規模のものであるが高床式構造で、床高6m以上に及ぶものもあつて、梯子によつて上下し入口は一ヶ所、他の三方の壁にも窓を設けてある。涼臺はヤミ族特有のもので、夏季暑氣を凌ぐとともに出漁せる家人の安否を見張り、時としては作業場として用ひられ、高床式吹抜構造である。

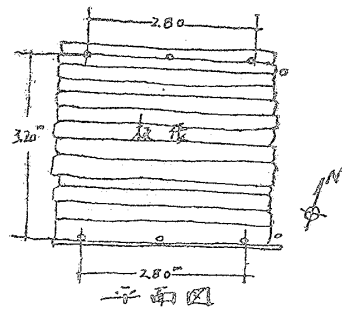
4. 獸骨架 獸骨架は多くの場合住家の入口或ひは室内に設けられるが、ツオウ族の一部に別棟として構築されたものがある。高床式構造で平面中矩形、三方に壁を繞らしその壁に沿ふて獸骨が架けてある。

5. 作業場 アミ族のものは平面矩形、内部を二分して牛車置場と作業場とに分けてある。ヤミ族のものは晝間は作業場として用ひ又炎暑の候には寢室として用ひられることもある。地上に低く建築され地下室を作り、地下室は物置として用ひてゐる。平面は矩形單室で床は板張である。妻入であるが海面よりの直風を避ける爲前面に簡易な防風壁を作り、その兩側に入口を附したものが多し。壁は二重壁、板天井を張つたものが多い。蓋し防暑の爲であらう。(27.2.24)

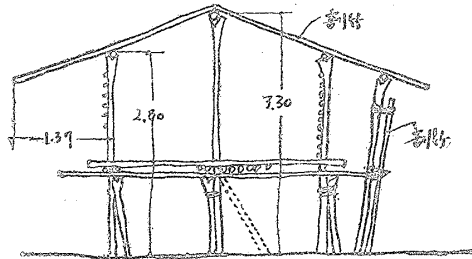
昭和26年12月四國の西海岸を旅行中高知縣幡多郡山奈村に於て泊屋とまやといふ特殊建築を見たがその構造及び用途が上記の集會所或いは望樓と酷似にゐるのに驚いた。兩者の間に果して如何なる關連があるかは此後の研究課題である。



第1圖 パイワン族トクブソ社の穀倉

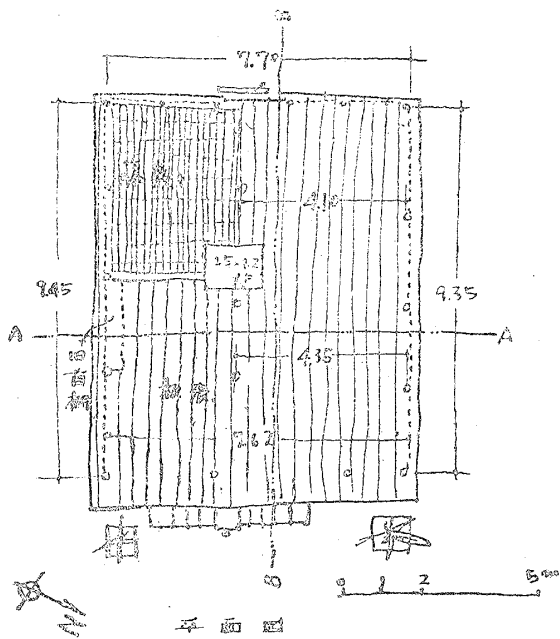


平面図



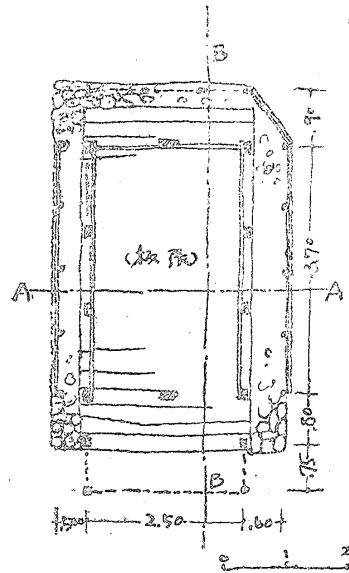
断面図 垂直的1.00

第5圖 ツオウ族ララウヤ族の歌骨架

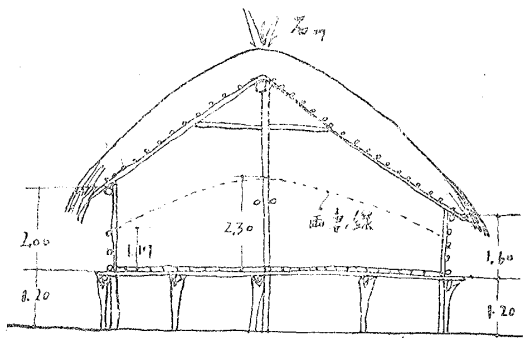


平面図

第2圖 ツオウ族タツバン社の集會所平面圖

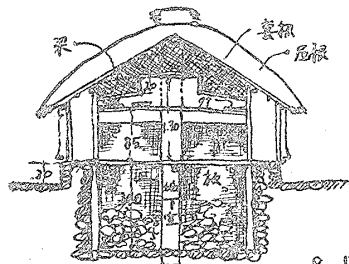


断面A-A

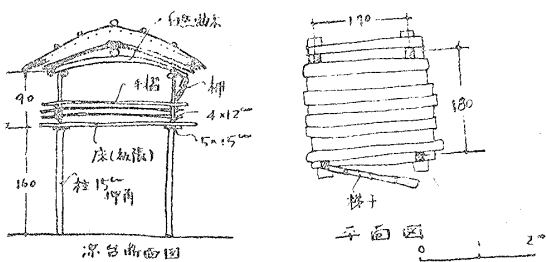


断面A-A

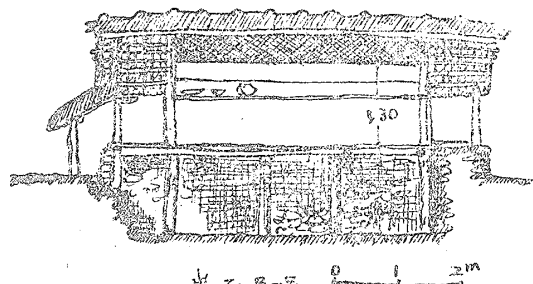
第3圖 同断面圖



断面A-A



第4圖 ヤミ族イモウルツル社の涼臺



断面B-B

第6圖 ヤミ族イモウルツル社の作業場